

青森の明るくアクティブな「土木女子」たち!

道路工事など、土木の現場で働く女性技術者「土木女子」。近年、注目されてきましたが、ほんの数年前までは、見かけることも稀でした。しかし今、土木が大好き!暮らしを支えるインフラの仕事につきたい!という想いを果たせ、土木の世界に飛び込んできた女性たちがいます。青森生まれの、魅力的な「土木女子」たちを紹介します。

どほく
大すき

独身でも土木、
結婚しても土木、
母になっても土木!

#31
FUSAE UEMURA

植村房恵

土木現場監督

株式会社 みどり工事部 土木2課。
青森県立八戸工業高等学校土木課、八戸工業大学環境建設工学科卒業。現場監督を経て、平成25年に株式会社 みどりに入社。10tトラックの運転手をしながら、1級土木施工管理技士の資格を取得。平成26年から監督業として手腕を発揮。

株式会社 福萬組
青森県十和田市東十三番町15-27
TEL.0176-23-4111
http://fukumangumi.com/

DATA



株式会社 みどり
青森県十和田市大字相坂字高清水78-455
TEL.0176-23-9199
http://www.kknidori.co.jp/

青函トンネル工事に感懐かし、土木を志す

青森県における建設業の新しい風となり、その魅力を発信しようと結成された女性建設技術者ネットワーク会議。初代会長を務めるとともに、福萬組グループ企業の一員として、土木・造園・舗装・解体・運送などを行う株式会社みどりで、道路の舗装工事や、駐車場など建物の回りの外構工事で現場監督を行っているのが植村房恵さんです。

子どもの頃からものづくりが好きで「厚紙で家やトンネルを作って遊んでいた」と言う植村さん。中学生のときTVのドキュメンタリー番組で青函トンネルができるまでを見て「海底を掘り進め、北海道と青森が貫通した瞬間、人はものづくりでここまで喜ぶのかと鳥肌が立って感動し、私もこんな構造物を造りたいと土木の道に進むことを決めました」と話します。



おいらせ町道の復旧工事を確認する植村さん

監督業は、工程・安全・品質・原価の管理が基本です。もちろん施工管理も含まれます。これまで、十和田市内の道路舗装から、ショッピングセンターの外溝、一般住宅の駐車場舗装まで様々なものを作ってきました。

社会貢献を実感できる、土木の仕事は素晴らしい

「大変だったこと?過ぎれば忘れますね」とあっさり。女だから弱みを見せまいと学生時代は意地になっていたそうですが「会社に入って仕事は男の人にはかなわない。でも地域の人への協力要請は、女性の方がいいし、それぞれが持つ得意分野を生かしてやって仕事をすればいい」と思えるようになったそうです。

仕事でやりがいを感じるのは、道路が完成し「ありがとう」とリアルに言われること。「社会に貢献している実感が沸いてきます。また、図面上で造ったものが現場でもびったりハマったときは気持ちいいし、作業員と一緒に喜びます」と満面の笑み。

趣味は、中学一年生から続けている柔道と、会社のラーメン部での食べ歩き。「県内は100店舗以上まわっています。よりラーメンをおいしくさせるライスは必須。幸福感がたまらないんです」



現場の仲間とラーメンを食べ歩き

将来の目標は「独身でも土木、結婚しても土木、母になっても土木!母になっても屋外で太陽というスポットライトを浴びて働いている限り、私はずっと自分らしく行きたいと思うし、女性建設技術者ネットワーク会議の会長として、女性が土木で働きやすい環境を作り、誇りが持てる仕事であることを伝え、次世代の見本になれるような活動を続けていきたい」と



意欲的に話していました。

作業現場にある女性専用の仮設トイレ。洋式、水洗、電気ヒーターなどを完備してくれた男性の心づかいに感謝!

女性だってできることを証明したい!

高校では土木の構造や論理を学び、大学では橋の構造に関する研究室で、瀬戸大橋の完成で地域の人たちの喜びを実感。「津軽海峡大橋構造の研究が大学で行われていたので、地元・青森の人が喜ぶための橋の研究に没頭しました」と振り返ります。

「実は私が学生だった頃は、結婚退職があたり前の時代。女性は土木で続かない、両立できる訳ないという声をいっぱい浴びて過ごしました。だからこそ、男性と同等に働きたい!女でもできる場所を見せたい!という想いが強かった」と本音をぼろり。

最初に勤めた橋台を造る現場では、巨大な構造物を目にした瞬間、「ずっとこの仕事を続けるぞ」と決意。家庭の事情で一旦会社を辞めたものの、フォークリフトと大型ダンプの運転手の資格を取得。いつか巡ってくるチャンスに備えていたそうです。

そして5年前、福萬組グループの株式会社みどりで10tトラックの運転手募集を知り、このタイミングは何かの縁と応募。「冬道の運転は怖かったし、いろいろ壊しました」と笑いますが「女性はいらぬ」と言われないう、運転手をしながら1級土木施工管理技士の資格を取得。そして今、土木の現場監督として、生き生きと仕事を楽しんでいます。

ひとことメッセージ

株式会社福萬組 福島司子 副社長



初めて会ったときからインパクトのあった植村さん。男性に劣らない仕事振りに加え、女性の強みを生かして花を飾るなど、現場を使って会社をアピールしてくれています。かつて女性は門前払いだった時代と比べ、今はだんだん変わってきています。当社では、毎年運動会をしたり、アイドルグループの曲に合わせて全グループの社員を踊らせPRビデオを作ったり、建設会社という古くて固いイメージを払拭させるための活動も行っています。やる気があればどんどん飛び込んで来て下さい。全力でサポートします!